



彼理日本紀行

第廿二章  
全拾壹本

洋学文庫  
文庫 8  
C 235  
9



Faint, illegible text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

11-2854





彼理日本紀行卷之二十二

手塚律蔵譯

彼理下田港ニ逗留ノ事並ニ箱館ニ發向ノ事

斯クテ提督彼理豆州下田港ニ到着シケレハ速

カニ測量船ヲ出シテ海中ノ測量ヲ命ジ是ヨリ

且此港ニ碇泊ノ間ハ絶ヘズ港内及ヒ其近邊

ヲ測量セシメ海水ノ淺深ヲ搜リ灣曲ノ廣狹ヲ

計リテ以テ舟船ノ航泊ニ便セシ事ヲ求メタリ



扱下田ハ豆州ノ東南隅ニ在リ豆州ハ相列ノ南  
ニ起リ伊豆岬ノ終尾ニ至リテ止ム伊豆岬ハ江  
戸海ノ灣口ナル相摸岬ヲ距ル事四十五里斗ニ  
シテ西南ノ間ニ懸出セル者ナリ又下田港ノ北  
方ニハ山脈相連リテ豆列ノ地ヲ兩段ニ隔絶シ  
又其南方ニハ無數ノ諸山有リト雖皆矮小ニシ  
テ大山ナシ又下田港ノ近邊ニハ小島岩石等海  
面ニ送出シテ其好景試ニ眺望スルニ堪ヘタリ  
然レトモ船舶下田港ニ入ラニ時ニ能ク注意シ  
テ以テ此岩石等ヲ避スニハ恐ラクハ其船舶コ

注按スルニ「ロツカ」  
島トハ岩石ノ  
大ニシテ島嶼  
ノ形状ヲナセル  
者ヲ云フルヘ  
シ

レニ觸レテ破却スルノ患アラニ舟人航客必ス  
能ク心ヲ用ヒテ以テ其害ヲ避クヘキナリ「ロツ  
カ」島<sup>「ロツカ」ハ石ノ義ナリ</sup>ハ北緯三十四度三十三分五  
十秒東經百三十八度五十七分十六秒ニ在リテ  
其岩石ノ高サ二十「フ」トニシテ其長サ海面ニ  
横タハル事一里三分ノ一ナリ而シテ其周圍ハ  
岸界屈曲シテ轉折常ナシ又其岩上ニハ苔蘚蒼  
カトシテ草木亦コレニ生シ又一條ノ瀑布アリ  
テ高々其一方ニ懸レリ我等船ヲ此岩島ニ漕寄  
セテ瀑布ノ本源ヲ窮メントセシカトモ折シモ

海風アリテ波浪穩カナラサリシ故ニ我等其險  
難アラシキ事ヲ恐レテ歸リ来レリ然レトモ其後  
日本ノ漢人等ノ言ヲ聞ケルニ此岩石ノ邊ニハ破  
船ノ患アル事ナシト云ヘリ又此岩石ノ西北ニ  
當リニ里程ノ距離ニテ「ユコ子」ト云ヘル岩石ア  
リ此岩石ハ近寄りテコレヲ見レハ二ツナレ共  
遠望スル時ハ一箇ノ岩石ノ如ク見ユルナリ此  
兩岩ノ大ナル者ハ其高キ事七十「フ」ト斗ナリ  
又「ユコ子」岩石ノ間ニ一條ノ潮流アリ此潮  
流ハ東方ヨリ東北ニ流レ且其長サ四里斗リ大

リ又岩石ト正中島トノ間ハ其距離五里半ナリ  
正中島ハ港内ノ中央ニ在リ我等日本人ト條約  
ヲ結ビテ無人下田ノ地歩行ノ限界ヲ定メシ時  
ニ此島ヲ以テ中心トシ此中心ヨリ七里諸方ハ  
無人勝手ニ歩行徘徊スルヲ得ント定メタリ此  
故ニ此島ヲ名ツケテ正中島ト云ヘルナリ又正  
中島ト「ユコ子」トノ間ハ三里半モアルヘシ又正  
中島ノ地勢ハ高クシテ其形圓錐状ノ如ク且其  
上ニ草木繁茂ニテコレヲ掩ヒ其中程ニ凹所ア  
リテ其中ニ水ヲ通セリ又此島ハ北緯三十四度

三十九分四十九秒東經百三十八度五十七分五  
十秒ニ在リ而シテ西方ニ偏ヨル事五十二分ナ  
リ又此邊ノ潮水ハ出潮ニナリテヨリ五時ヲ經  
テ満潮ニ及フ此満潮ノ時正中島ノ海岸ヲ以テ  
其出水ヲ測ルニ其常時ヨリモ高キ事五「フ」ト  
半余ニ及ヘリ或ハ又三「フ」トナル事モアルナ  
リ又正中島ノ東北ニ當リテボ「イ」サ「コ」ト去ヘル  
小島アリ此地形ノ高キ事三十「フ」ト斗ニシテ  
草木青々トシテコレニ生セリ又洲崎村ノ海岸  
ヨリ一里三分ノ一程ヲ隔タリタル処ニ一高岩

アリテ怒潮常ニコレヲ嚙ニ高浪常ニコレヲ掠  
ム西南ノ方ヨリ下田ニ入港スル船舶ハ多ク伊  
豆岬ニ沿ヒ來ルナリ此伊豆岬ハ北緯三十四度  
三十二分東經百三十一度五十一分ニアリテ「ロ  
ツカ」島ヲ去ル事六里ナリ而シテ天气快晴ノ日  
ニ此岬崎ヨリ其東北ヲ望ム時ハ江戸灣ノ諸島  
悉クコレヲ一目ニ見ル事ヲ得ヘシ又「ロツカ」島  
ト陸地ノ海岸トノ間ニハ數片ノ岩石水上ニ横  
出シテ實ニ舟路ノ險難ナリ日本人ノ舟ハ常ニ  
此間ヲ往來ニ居ルト雖我等ハ此処ヲ通行スル

ヲ欲セサルナリ又「ロツカ」島ヨリ其西方ニ向ヒ  
テ船ヲ出入事一里ハカリナル時ハ其西北ニ當  
リテ下田港ヲ十分ニ眺望スル事ヲ得ルナリ又  
「ロツカ」列ハ下田ノ港口ノ東岸ニ在リ而シ  
テ其後ノ丘陵ニハ樹木青々トシテ森林ヲナセ  
リ故ニ海上ヨリ遙ニ此樹木ヲ望ミ見テ以テ「ハ  
ンダレ」洲ヲ認ムル事ヲ得ルナリ亦洲崎村ヲ  
遠望シテ以テ「ハンダレ」洲ノ方位ヲ知ル事モ  
有ルヘシ洲崎村ハ「ハンタレ」洲ト「ゲ」モシド  
岬トノ間ニ在リテ「ハンダレ」洲ノ方ヘ偏ヨレ

リ又「ロツカ」島ト陸地トノ間ヲ舟行スルニハ宜  
シク満潮ノ時ヲ用ユヘシ北風烈ニク吹き來ル  
時ハ舟船下田ノ港内ニ入ル事ヲ得ス故ニ此ノ  
如キ時ハ舟船此港口ニ留泊スルヲ善トス又舟  
船東北ノ方ヨリ下田港ニ入ラント欲スル者大  
島ノ兩側ヲ通航スルナリ大島ノ正中ヨリ「ゲ」  
モシド岬ヲテハ其距離大約二十里斗ナリ又東  
方ヨリ下田ニ航スル者ハ「ゲ」モシド岬ヲ過キ  
ナル時ハ下田ノ港口ヲ見ル事能ハス又下田ト  
大島トノ間ニハ別ニ舟路ノ險難ナシト雖トモ

唯一條ノ潮流アリテ其通線東北ニ横ハレリ舟  
人航客宜シク其心ヲ用ヒテ以テ其險難ヲ避ク  
ヘシ朝暮暗夜等ニハ殊ニ注意セズニハ有ルヘ  
カラス又大島ノ方ヨリ下田港ニ入ルニハ先ツ  
チ<sup>7</sup>モ<sup>7</sup>シ<sup>7</sup>ド岬ヲ認メテ以テ下田ノ方位ヲトス  
ルナリ然レトモ陰雲雨天ナトノ時ハ大島ヨリ  
此岬ヲ分明ニ見ル事能ハス故ニ此ノ如キ時ハ  
外ニ下田港ノ標目モアラサレハ<sup>7</sup>口ツカ島ヲ以  
テ其標目トナスヘシ<sup>7</sup>チ<sup>7</sup>モ<sup>7</sup>シ<sup>7</sup>ドノ北方ニ當テ  
白濱港ト云ヘル港アリ此港内ハ深シト雖トモ

其海岸沙磧多シ其形勢下田港ニ劣レリ又下田  
港ノ近邊ノ海上ヨリハ<sup>7</sup>チ<sup>7</sup>モ<sup>7</sup>シ<sup>7</sup>ド岬ヲ見ル事  
能ハス然レトモ下田ヘ上陸シテ其高处ニ登ル  
時ハ其岬ヲ望ミ見ル事ヲ得ルナリ下田港ノ西  
方ニハ數点ノ沙洲アリテ舟船コレヲ離ル事  
六里或ハ里斗ニシテ遠カニコレヲ認ムル事ヲ  
得故ニ此沙洲舟船着岸ノ標的トナルナリ又東  
南ノ方ヨリ下田ノ港ニ航海スル者ハ三宅島ノ  
西方ヲ通行スヘシ此三宅島ノ西ニ一山アリテ  
其頂甚白ク恰モ白雪ヲ帯タルカ如キ者アリ其



北方ニハ一羣ノ小山アリ此兩様ノ眺望ヲ以テ  
三宅島ヲ知ル事ヲ得ルナリ此三宅島ノ西南ニ  
當リテ數点ノ岩石海面ニ迭出セル者アリテ亦  
舟路ノ一險ナリレドヒール氏初メテ此岩石ヲ  
發見セシヲ以テ我カ提督此岩石ヲ名ツケテ「レ  
ドヒール」岩ト云ヘリ其一岩ハ北緯三十三度五  
十六分十三秒東經百三十八度四十八分三十一  
秒ニ在リ又其一ハ北緯三十三度五十七分三十  
秒東經百三十八度四十九分十三秒ニ在ル者アリ  
又下田港内ニハ二ツノ暗礁アリ其一ヲ「ソ

ハント」岩ト名ツク是ハ「ソ」ハントニ船初メ  
テ此暗礁ヲ發見セシ故ニ斯ク名ツケタル者ナ  
リ而シテ此岩石ハ下田港兩海岸ノ中央ニアリ  
テ「ハ」ント「レ」洲ノ西北ニ當レリ「ハ」ンダ「レ」洲  
ト正中島ノ間ニ在リテ正中島ノ方ヘ近寄レリ  
其岩石ノ徑ハ二十五「フ」トニシテ海水其上ニ  
在ル事ニ尋斗ノ深サナリ其岩石ノ上ニ白錨浮  
ヲ浮ヘ置キテ以テ舟路ノ險難ヲ表セリ其一ハ  
「シ」ヤ「プ」レ「レ」岩ト云ヒテ「ボ」イ「カ」コ「レ」小島ノ西南ニア  
リテ海水其上ニ在ル事十一「フ」トノ深サナリ

又此岩石ノ上ニハ紅錨浮ヲ置キテ以テコレヲ  
表セリ○提督下田港ニ到着シテヨリ二日ヲ経  
テ四月二十一日ニ日本ノ官吏等ノ案内ニテ下  
田ニ上陸シ黒川嘉平及ヒ森山栄之助等ト出會  
セリ夫ヨリ黒川等ト種々ノ會議終リタル処ニ  
テ下田ノ市中ニ徘徊シテ処々ヲ遊覽シ神社佛  
閣等ヲ見物シテ帰船ノ時ニ日本ノ官人  
等人ヲシテ我カ船中入用ノ食物ヲ齎ラシ我カ  
方ニ贈ラシメノタリ○又亞人兼テ日本人ト條  
約ヲ定メシ如ク下田ノ地ハ亞人ノ步行勝手ノ

事ナル故ニ亞人等自由ニ下田ノ邊ヲ徘徊シテ  
処々ヲ遊覽セシニ下田ノ土人等我等ニ逢ヒテ  
大ニニ我等カ異形ヲ奇ナリトシ近寄り来リテ  
我等ノ衣裳佩剣及ヒ結<sup>ボウ</sup>節<sup>ン</sup>等ヲ吟味シ指ヲ以テ  
コレヲ指シ其狀我等ニ問フ所アルニ似タリ察  
スルニ此日本人等ノコレヲ指セルハ其物品ノ  
亞名ヲ問ヒタルナルヘシ此時日本ノ吏人等馳  
テ来リテ此邊ニ群リ居タル土人等ヲ追ヒ拂ヒ  
タリ是ニ於テ我等日本政府ニテ其國民等ヲ猥  
リニ亞人ト交ルヲ堅ク禁スルヲ知レリ且又日

本ノ官吏等ハ今斯ノ如ク土人等ヲ制シテ其威  
勢ヲ我等ニ示サントセル事ト見ヘタリ是レ我  
等ニ於テ甚以テ快カラサル事ナリ又我カ官吏  
等海岸ヲ徘徊シケレハ日本ノ官吏等恰モ野犬  
ノ相連ナリテ獵人ニ從フカ如ク始終我等ニ附  
添ヒテ守リ居又我等下田ノ市中ヲ行ク時ハ恰  
モ惡病惡氣等ノ市中ニ入り来レルヲ避クルカ  
如ク家々皆其戸部ヲ閉テ窓牖ヲ塞キ閣里寂々  
トシテ物音ヲ沉メ日本ノ官吏等寸陰ノ間モ我  
等ノ側ヲ離レズ常ニ我等ヲ守リテ其自由ヲ得

サラシメタリ然レハ我カ提督ハ日本ノ此ノ如  
キ取扱ヲ以テ甚不快ノ事ナリトシ且先日條約  
ノ章目ニモ日本人刑人ヲ取扱フニハ窮迫不自  
由ナラシムヘカラストノ事アルナレハ提督遂  
ニ其屬將一人通辯官二人ヲ遣ハシテ日本ノ官  
人ニ告ケテ曰ク我カ官吏等ノ上陸シテ処々ヲ  
徘徊スル時ニ當リ其政府邏卒ヲ出シテ以テ亞  
人等ヲ守ラシムコレヲシテ其自由ヲ得セシメ  
ス窮迫ノ待遇豈條約ノ意ナラシヤ且又其市中  
ヲ行ク時ハ其方ノ人民ヲ追拂ヒ其門戸ヲ閉塞

セシムテ亞人ト交通スル事ヲ得サラシム是レ  
實ニ深ク和親ノ情ニ背ケリ此事宜シク改革セ  
ラルヘシ若シ具レ然ラスニハ我等直チニ江戸  
府ニ赴キテ細カニ此事ヲ議スヘシト又提督日  
本人ニ言ハシメテ曰ク亞人在留ノ地ハ宜シク  
海岸ノ好処ニ於テコレヲ撰ミ給ハルヘシ又此  
度大島ニ赴カント欲スルノ間何トシ其方ニテ  
此行ノ食料ヲ給セラルヘク且其方ノ官吏ヲ遣  
シ一艘ノ日本船ニ駕シテ以テ我カ先導トナシ  
給ハルヘシト日本官吏コレニ答ヘテ曰ク長崎

在留ノ和蘭人処々ヲ徘徊スルノ時ハ必日本ノ  
邏卒十二人或ハ十四人附添ヒテコレヲ守ル事  
其常ナレハ亞人ニ於テモ斯アルヘキ事ニアラ  
スヤト提督コレヲ聞テ曰ク我國ニテハ日本ト  
永代不朽ノ和親ヲ取結ヒタル事ナレハ何ソ和  
蘭人ノ例ヲ以テ究迫ノ待遇ヲ受クヘケンヤ其  
方ノ待遇實ニ和親ノ旨ニ背ク事多シ又亞人ハ  
日本人ト交ルト雖トモ敢テ日本人ニ害ヲナス  
コトナシ故ニ我等上陸スルトモ其方ニテ宜シク  
我等ニ守兵ヲ随ハシムル事ナクシテ自由ニ日

本ノ人民等ト交ル事ヲ得セシムヘキナリト是  
ニ於テ日本官人等ハ此提督力嚴答ヲ得テ其事  
ヲ獨斷スルコト能ハス遂ニ使ヲシテ江戸政府  
ニ其事ノ裁斷ヲ乞ハシメタリ而シテ日本ノ官  
人ヨリ提督ニ告ケシメテ曰ク公ノ所願ノ旨ハ  
下官ニテコレヲ裁決スル事能ハス故ニ此議ヲ  
江戸府ニ奏シテ其可否ヲ請ヒ居タリ公宜シク  
其意ヲ得ラルヘシ併シ江戸府ヨリ可否ノ答命  
コレアル迄ノ間ハ先暫ク公ノ所願ニ從ヒテ丑  
人陸地ヲ徘徊スルトモ民家ノ門戸ヲ閉テ防守

ノ邏卒ヲ附從セシメテ此事ヲ止ムヘシト又日本  
官人ヨリ提督ノ望ニ從ヒ大船一艘小舟二艘ヲ  
装艦ニ官吏ヲシテコレニ駕シテ丑船大島行ハ  
先導ヲナスノ用意ヲナサシメ居タル由ナラヒ  
ニ丑人下田ニ滯留ノ間ハ下田ノ寺院ヲ撰ミテ  
丑人ノ為メニ兩三ノ宿寺ヲ定メ置キタル由ヲ  
申シ越シタリシカニ其後日本官人ヨリ丑人  
ニ應接アリテ丑人ノ自由ニ日本人ニ交ラント  
ノ望ハ遂ニ達スル事ヲ得サリケリ然レトモ是  
ヨリ丑人日々上陸シケルニ日本ノ邏卒等ハコ

レニ附添フ事然カリケリ式ル日亞人下田市街  
ノ外ヲ徘徊シケルニ二人ノ日本人徐カニ其後  
ニ繼キ来レル者アリタリ此時亞人ハ此二人ヲ  
日本ノ間者ナリト察シケル故ニ初メノ程ハ大  
ニコレニ心ヲ痛コシメ居タルニ此日本人等亞  
人ニ近寄りテ密カニ言語ヲ交ヘント欲スルノ  
様子ニ見ヘケレハ亞人モ立留リテコレヲ待受  
ケ近甘キテ其兩人ノ様子ヲ見ルニ其人等腰間  
ニ両刀ヲ佩テ緒ノ羽織ヲ着用セリ是ニテ亞人  
初メテ此人等ノ下賤ノ者ニ非サルヲ知レリヤ

レトモ此兩人等ハ其躰上等ノ輩ト見ヘテ常人  
ノ躰ニハ見ヘサリケレハ亞人モ甚コレヲ恠シ  
ミテ心ヲ許サズ居タリケルニ果シテ此兩人目  
ヲ四方ニ轉シテ其近傍ニ人無キヲ窺ヒ忽亞人  
ニ近寄り亞人ノ所持セル時計ヲ見シ事ヲ頗  
トテ其ヨリ直チニ一通ノ書簡ヲ取出シテ亞人  
ノ胸中ニ突キ入レ其事ノ秘密ナル躰ヲ示シテ  
速カニ辭ニ忝レリ亞人其書簡ヲ船中ニ持参セ  
ル処ニテ通辨官ウケル列ル謨コレヲ翻譯シケルニ  
其文ニ曰ク

江戸府ノ書生二人敬ニテ書ヲ丑國ノ水軍大  
総管ノ執事ニ呈ス吾等資性脆弱ニシテ騎射  
武技ハ皆具長スル所ニ非ス寂々區々トシテ  
空ク光陰ヲ送レリ支那ノ書ヲ讀ミテ稍海外  
ノ事ヲ知ルニ及テ是ヨリ慨然トシテ五大洲  
ノ間ニ周流スルノ志ヲ生シ日夜思慮シテ以  
テ其事ヲナサント思ヘリ然レトモ我國ハ海  
禁甚嚴ニシテ内地人ノ海外ニ出ル者ト外國  
人ノ境内ニ入ル者ハ皆コレヲ殺シテ能ハ  
コレヲ免ルス事ナシ胸襟當々トシテ呻吟日

ヲ終フル事數年然ルニ今幸ニシテ貴國ノ船  
艦日本海ニ來泊スルニ遇ヒ夙志復發揚ニテ自  
制スル事能ハス然ル間今總督公及ヒ諸將官  
ノ惠ヲ以テ宜シク吾等カ意ヲ情察シ吾等ヲ  
貴船ノ中ニ隱シテ遠ク海外ニ出ルヲ得セシ  
メ國禁ヲ破リテ五洲ニ周遊スルノ志ヲ達ス  
ルヲ得セシメヨ且又群公若吾等ヲ憐ミ吾等  
カ志ヲ遂クルヲ得セシムル時ハ駟使用役何  
ナリトモ唯群公ノ命ニ從フヘシ夫跛辟ノ者  
ハ能ク行走スル者ヲ欽羨シ能ク行走スル者

ハ又彼騎乘ノ者ニ如サルヲ恨ム是レ實ニ人  
ノ常情ナリ今吾等終身奔走スルトモ東西三  
十度南北二十五度ノ外ニ出ル事能ハスレテ  
彼ノ風波ヲ犯シテ千万里ノ外ニ往來シ五大  
洲ノ間ニ周旋スル事比隣ニ往クカ如キ者ヲ  
視ル時ハ其コレヲ欽慕スル事ハ跋履ノ行走  
行走ノ騎馬モ實ニ譬フルニ足ラズ願クハ群  
公惠憐ヲ吾等ニ垂レテ所願ノ旨ヲ許サレハ  
吾等ノ大幸何事カコレニ如カシ扱又此事若  
漏泄シテ吾カ國人ニ知ラル、時ハ忽テ死刑

ニ行ハルヘシ然ル時ハ帝徒ニ吾等ノ夙志ヲ  
空クスルノミナラス總督公及ヒ將官ノ仁德  
ヲ欠キテ美声ヲ損スル事モ亦多カラン故ニ  
群公宜シク此事ヲ包隠シ發覺スル事無クシ  
テ我ヲ海外ニ出サル、時ハ他年歸來ノ時ハ  
國人必往事ヲ索メテコレヲ窮治セスコレニ  
依テ羣公願ハクハ能ク吾等力誠心ヲ明カニ  
シテコレヲ疑フ事勿レ拜首敬白

四月十一日

又此書面ニ添ヒタル別紙一通アリ其譯文左ノ



如シ

本書中ニ載セタル所ハ吾等多年ノ願望ニシテ  
貴船横濱ニ滞留セルノ間吾等累日思慮ヲ  
運ラシ夜中ニ乘シ澳舟ヲ以テ貴船ニ近寄ラ  
シ事ヲ企タテタレトモ巡夜邏卒守備嚴密ニ  
シテ遂ニ此事ヲ遂ケサリケリ其レヨリ貴船  
ノ下田へ来ルヘキ由ヲ聞及ヒ吾等先此地ニ  
来リテ貴船ヲ待テ受ケ小舟ヲ以テ貴船ニ近  
付カント謀リ居レトモ未夕其便ヲ得ヌコレ  
ニ依テ願ハクハ羣公等宜シク吾等カ為ノニ

會議ヲ遂ケ吾等ノ所願ヲ許容セントスルノ  
志アラハ明日夜半ノ頃ニ其一小舟ヲ榊崎村  
ノ海岸人家ノナキ処ニ遣ハシテ吾等ヲ迎ヘ  
ラルヘシ此事伏シテ偏ニ希望スル所ナリ

四月二十五日

斯クテ四月二十五日夜二時頃ナリハツ時ニ至リ  
ケレハ小舟ニ打乗リテ我カミスシツピル船ニ  
近寄り聲ヲ揚ケテ我カ船中ノ番兵ヲ喚起ス者  
アリ出テコレヲ見レハ日本人兩人ナリシカ  
ルニ此兩人忽階梯ヲ登リ来テ我カ船中ニ留ル

事ヲ免サレント乞ヒタリ且ツ此兩人ハ必定我  
カ船中ニ留マリテ彼海岸ヘハ歸ラシトノ覺悟  
ト見ヘ其趣ヲ亞人ニ告ケテ彼等ノ乘來レル小  
舟ヲハ速カニコレヲ歸サント去ヘリ此時ミス  
シツピリノ船將官ハ此兩人ニ教ヘ宜シク其小  
舟ニ歸リテ提督ノ居船ニ赴クヘシト云ヒケレ  
ハ兩人忽チ復タ小舟ニ乗りテ提督カ方ヘト漕  
キ寄セタルニ折シモ海風荒カシクシテ波濤小  
舟ヲ盪カシ兩人コレカ為ニ大ニ苦ニミタレト  
モ遂ニ其艱險ヲ犯シテ提督ノ船ニ達スルヲ得

直チニ其階梯ヲ登リテ甲板上ニ至リケレハ船  
中ノ士官コレヲ提督ニ告ケタリ是ニ於テ提督  
通辨官ニ命ジキ其兩人ニ時ナラスニテ我カ船  
中ニ渡來セルノ主意ヲ問ハシメタリケレハ兩  
人答ヘテ曰ク我等兩人夜間ニ及ビ風波ヲ犯シ  
テ渡來セルノ主意ハ別儀ニ非ス唯我等明將軍  
ノ惠ニ頼リ此船中ニ入りテ合衆國ニ往キ其ヨ  
リ諸國ニ航海シテ天下ノ事勢ヲ見ニ莫ク願フ  
ナリト此時提督此兩人ハ先日亞人等ト海岸ニテ  
出合ヒタル時ニ一通ノ書簡ヲ以テ亞人ニ與ヘ

タル者ナルヲ知りタリ扱此両生我カ船中ニ来  
ニカ為ニ大ニ其心ヲ勞シ慮ヲ廻ラシテ以テ支  
ヲ謀レルト見ヘ元来此輩ハ下賤ノ人品ニハ非  
サレトモ水夫舟人等ノ躰ニ身ヲマツセリ且兩  
生ノ内唯一人僅カニ一短刀ヲ腰間ニ佩ヒタル  
斗ニテ其余ノ刀劍ハ皆コレヲ小舟ノ内ニ殘シ  
来レリ又此兩生ハ随分高貴ノ者ニシテ善ク支  
那學ニ達シ支那文ヲ書ク支最モ巧ナリケリ扱  
提督兩輩ノ主意ヲ聞テ熟々コレヲ勘考シ兩生  
ニ告テテ曰ク二子ノ志誠ニ感心セリ二子ノ如

キ者ヲ吾國ニ伴ヒ行カン支ハ我等ニ於テモ實  
ニ望ム所ナリ然レドモ今我新ニ日本ト和親ヲ  
結ヒテ條約ヲ立テタリ當ニ信義ヲ守リテ以テ  
兩國ノ交結ヲ固フスヘシ若夫レ信ニ背テ以テ  
支ヲ謀ラハ何ヲ以テカ人ニ示サン然レハ我レ  
未タ其方ノ政府ヨリ日本人ヲ吾國ニ伴ヒ行ヘ  
キノ許容ヲ得ス故ニ甚以テ殘心ナカラ此支承  
諾シ難シ且我カ諸船下田ヲ去ラン支ハ未タ朝  
夕ニモアラサレハ其内ニ又好時節モアルヘキ  
ノ間宜シク重子テ此支ヲ謀ラハルヘシト是ニ

於テ両生大ニ其氣力ヲ失ヒ又提督ニ謂テ曰ク  
今若我カ輩彼海岸ニ歸ル時ハ其首領ヲ失ハシ  
支目前ニ在リ故ニ唯偏ニ明將軍ノ惠ヲ頼ムト  
然レトモ提督堅ク此支ヲ斷リテ速カニ此兩輩  
ヲ送りヤランカ為ニ吏ニ命ニテ小舟ヲ用意セ  
シメケレハ此兩生大ニ望ヲ失ヒテ其不幸ナル  
ヲ歎キ余義ナク階梯ヲ下リテ小舟ニ乗リ移レ  
リ其ヨリ亞人兩生ヲ護送シテ直チニコレヲ海  
岸ニ上陸セシメタリ○此翌日森山栄之助ゴホ  
ハクニ船ニ来レリ此栄之助ナル者ハ是ヨリ先

ニ亞船大島行ノ支ニ付キテ江戸府ニ赴キタル  
カ此時大島行延引ノ支ヲ應接セシカ為メニ江  
戸府ヨリ下田ニ来レル者ナリ扱栄之助我カ方  
ニ問フテ曰ク昨夜若日本人兩輩此方ノ船中ニ  
来レル事ナシヤ抑何レノ船ニ来リテ何等ノ支  
ヲナセルヤト委細ニ昨夜ノ次第ノ問ケル故ニ  
船將官コレニ答テ曰ク昨夜實ニ日本人ノ我カ  
船中ニ来レル支アリ元来日本ノ舟船特々我カ  
方ニ往來シ居ル故ニ昨夜ニ唯平常往來ノ日本  
舟ト思ヒ少シモ疑ハスニテ速カニ其人ヲ我カ

船中ニ入レタルナリ然レトモ我カ方ニテ其兩  
人渡来ノ主意ヲ問ヒ尋子直テニ小舟ヲ以テ其  
兩人ヲ陸上ニ送り歸セリ定メテ無変ニ上陸セ  
ルナルヘシ然レハ右ノ変ニ付キテ何カ亞人ヘ  
議論スヘキ変モコレアルヤト此時榮之助此変  
ニ付キテ只今官舎ノ議論恟々タル由ヲ語りケ  
レハ提督此由ヲ聞取り速カニ一將官ヲ上陸セ  
シメテ下田ノ官舎ニ至ラシメ日本官人ニ言ハ  
シメテ曰ク昨夜渡来ノ兩生ハ我カ方ヘ少しモ  
害ヲナセル変ナシ若シ我カ方ノ変ニ係リテ此

兩生ノ罪ヲ受クヘキ変アラハ何トソ我等カ為  
ニコレヲ赦シ給ハルヘシト數言ヲ以テ兩生ノ  
為ニ其罪ヲ宥免セラレシ変ヲ乞ヒケレハ是ニ  
於テ日本ノ官吏等モ初メテ此兩生ノ亞人ニ害  
ヲナセルニ非カルヲ知り唯一旦ノ狂志ヲ以テ  
外國人ノ船中ニ往カン変ヲ謀レル者ナリト思  
ヘリ此時我カ將官又曰ク此兩生ハ實ニ貴國ヲ  
出亡シ廣ク諸國ニ周流シテ以テ天下ノ變勢ヲ  
見ント欲セルナリ然レトモ今亞國其方ト新ニ  
和親ヲ結ビ未タ貴國ノ人ヲ亞國ニ伴ヒ往クヘ

キノ約ヲナサス故ニ向後復此ノ如キノ輩ヲシ  
テ幾人アラシムルトモ我カ方ニテハ決シテ其  
望ニ從ヒテコレヲ船中ニ留メス若我カ方ニテ  
兩國ノ交好ヲ思フテ以テ其信義ヲ重ニセサル  
時ハ今般既ニ此兩生ヲ留メテ以テ本國ニ伴ヘ  
ルナラン故ニ公等宜シク我カ方ノ信義ヲ重ニ  
スルヲ明カニシテ以テ是等ノ事件ニ配慮セラ  
ル、莫無カルヘシト夫其國ニ生ル、者ハ必亘  
シク其國法ニ從フヘシ日本ノ法制ハ元來其民  
ヲシテ外國ニ出ルヲ得セシメスコレヲ犯ス者

ハ必ス死ス是日本ノ法制ナリ此兩生モ固ニ宜  
シク此法禁ヲ守ルヘキナリ然ルヲ今猥リニ其  
國禁ヲ破リ私ニ交通ヲ我ニ求メテ以テ外國ニ  
出遊セシト欲セリ日本ノ法ヲ以テコレヲ見レ  
ハ實ニ是レ重罪ノ輩ナリ其罪固ニコレヲ嚴科  
ニ処スヘシ然レモ我等今能ク此輩ノ至情ヲ原  
ホ公平ノ説ヲ以テコレヲ論スル時ハ亦コレヲ  
罪スヘキ者ニ非サルニ似タリ從又此輩所願ノ  
旨分明ニシテ疑フヘキ所ハナシト雖トモ若出  
遊ノ所願ノ外ニ別ニ一計ノ趣向モコレアルヘ

キカ戎カ方ノ武人ノ説ニ此両生諸國周遊ノ夏  
ハ実ニ其本旨ニアラシ是必不意ニ此ノ如キノ  
夏ヲ設ケコレヲ亞人ニ與ヘテ以テ其処置ヲ嘗  
ムルノ計策ナラント去ヘルモアリ又提督ハ元  
来此両生其國禁ヲ犯シテ大罪ヲ蒙ムレテ以  
テ遂ニ此輩ヲ救フテ其刑ヲ免レシムル夏能ハ  
サルヲ知レリ然レトモ此時提督使ヲ遣ハシテ  
其罪ヲ宥メン夏ヲ日本官人ニ乞ヘル者ハ蓋此  
夏ニ因テ以テ其仁心ヲ日本人ニ示サンカ為ナ  
リ扱此度ノ一夏ハ実ニ尋常ノ夏ニ非ス元来此

両生ハ其才畧人ニ過キタルヲ以テ常ニ其才力  
ヲ尽ス事能ハサルヲ恨ム然レトモ其議論識見衆  
ニ異ナルヲ以テ遂ニ其志ヲ當時ニ得ル事能ハ  
ス故ニ亞船ノ渡来ヲ幸トシテ今般ノ事ヲ謀レ  
ルナルヘシ然レトモ其本國ノ制禁ニ罹リテ此  
事モ亦遂ニ成就セズ嗟呼此輩ヲシテ今般ノ所  
願成就スル夏ヲ得セシマハ彼ノ将来ニ於テ如  
何ナルコトヲ日本國ニ為サンカモ未タ知ルハ  
カラサルナリ○其後アル日亞人上陸シテ下田  
ノ地ヲ徘徊セシ時ニ偶獄舎ノ邊ヲ過キタリ是

：於テ亞人其獄中ノ者ハ即チ先夜私ニ我カ船  
中ニ来レルニ人ナルヲ知レリ此時其囚人等獄  
舎ノ内ニ取籠ノラレタレトモ少シモコレニ屈  
スルノ色ナク自若トシテ居タリケルカ亞人ノ  
来レルヲ見テ甚コレヲ悦ビタル躰ニ見ヘケル  
故亞人進ミテコレニ近寄りケレハ其囚人一通  
ノ文書ヲ出シテ亞人ニ與ヘタリ亞人コレヲ見  
ルニ其文ニ曰ク

夫英雄ノ夏ヲ謀ルヤ夏成ル時ハ則チ青雲ノ  
上ニ登リ若夏成ラサル時ハ則チ縲絏ノ中ニ

縲 陷リ盜賊ト異ナル事ナシ英雄ノ狀躰此ノ如  
キノニ今我等事ヲ謀リテ成ラズ俗吏邏卒ノ  
爲ニ苦ノラレテ辱ヲ縲絏ニ取ル此狀体ヲ見  
ル時ハ其英雄タル夏乃チ如ルヘキナリ夫日  
本ノ境内ハ僅カニ六十洲ノニ我等此數列ニ  
周遊スルトモ未タ行旅ノ勞トスルニ足ラス  
必シモ五大洲ニ横行シテ而テ後ニ乃チ其望  
ニ滿ツヘキノニ我等襁褓ノ中ヨリ日夜此夏  
ヲ思フテ以テ光陰ヲ送レリ然ルニ今猝カニ  
不幸ニ遇フテ夙志頓ニ敗レ篋居狭小ニシテ



縦横幾モナキニ六尺ノ身体此中ニ坐臥飲食セリ  
嗟呼如何セハ則チ此中ヲ出ル莫ク得ニ泣キ  
テハ愚人ノ如ク笑ヒテハ狂者ノ如ク嗟呼コ  
レヲ如何セン如何トモスル莫ナキノミ

市木公太

瓜中萬二

斯クテ我カ提督此吏ヲ聞キ速カニ将官一人ヲ  
陸上ニ遣ハシテ其囚人等ハ先日我カ船中ニ来レ  
ル者ナレカヲ問ハシメタルニ此将官上陸シテ  
獄舎ノ前ニ至レハ囚人最早其中ニ居ラサリケ

リ是ニ於テ将官コレヲ恠ニ獄舎ノ守吏ニ達  
シテ其由ヲ問ヒケレハ其守吏答テ曰ク江戸府  
ノ命アリテ今朝既ニ此兩人ヲ江戸ニ送レリト  
然レハ此兩人ハ全ク私ニ我カ船中ニ来レルカ  
為メニ捕ヘラレタルカ下田ノ官人ニテハ自ラ  
其処置ヲ決スル莫能ハサル故ニ右ノ趣ヲ江戸  
府ニ注進シタレハ江戸府ヨリ嚴命アリテ此兩  
人ヲ下田ヨリ送ラシメタルナリ扱此兩人ノ運  
命ハ向後如何成行ヘキヤハ知ラテトモ定メテ  
日本ノ嚴政ニ依リテ死刑ニ行ハルヘニ固ニ悲

シカリケル次第ナリ我カ提督ハ迎ニ此兩人等  
ヲ救フ莫叶フコト知レトモ成犬其罪科ノ議  
論ヲシテ輕キニ從ハシメント思ヒタリ○斯テ  
又提督ハ兼子テ日本官人ニ應接ニ及ヒ亞人上  
陸留居ノ為ニ其宿寺ヲ定メン莫ヲ望ミ居タリ  
シニ日本政府ニテ則チ其望ニ從ヒ下田良善寺  
ヲ以テ亞人ノ宿寺ト定メタリ叔日本ノ寺院ト  
云フ者ハ賓客ヲ待ツヘキノ坐席ヲ多ク設ケ置  
キ祭日等ニハ此坐席ヲ以テ諸人羣集ノ場所ト  
スルナリ然レハ此度良善寺ヲ以テ亞人ノ宿寺

ト定メケルニ其結構皆亞國ノ宿所ト違ヒテ諸  
莫不便ナリケレハ提督船中ヨリ椅子等ノ諸器  
物ヲ移シテ以テ諸用ニ便セリ又提督宿寺ニ於  
テ其居室ヲ海岸ノ方ニ開キテ海面ヲ眺望シ又  
其近傍ナル丘陵等ニ逍遙シテ其氣ヲ養ヒタリ  
叔其後亞人下田ノ市中ヲ徘徊セシニ日本人ノ  
為ニ妨ケラレテ其自由ヲ得ル莫能ハス又一日  
提督亞人等數輩ヲ携ヘテ市中ヲ徘徊シケルニ  
又以前ノ如ク日本ノ吏卒等附添ヒ来リテコレ  
ヲ守リ通行ノ道路ハ皆其人ヲ追拂ヒ人家ハ

皆具戸部ヲ閉塞セシメ又亞人ノ市中ニ於テ日  
本ノ物品ヲ買フ者ヲ許サ、リケレハ提督其諸  
條先日日本官人ヨリ申シ来レル約束トハ大ニ  
相違セルヲ以テ早速ニ属将官一人ヲ遣ヒテ此  
事ヲ言ハシメケレハ属将官提督ノ命ヲ蒙リテ  
日本官人ニ告ケテ曰ク其方ノ処置大ニ先日ノ  
約ト相違ヒテ亞人処々ヲ徘徊スル時ハ吏卒ヲ  
シテコレニ從ハシメ又市中ヲ通行スル時ハ人  
民ヲ追ヒ拂ヒ戸部ヲ閉塞セシメ兩國人ヲシテ  
親シク相交ハル者ヲ得セシメス是必日本政府

ニ於テハ兩國ノ和議ヲ破ラントノ所存ナルハ  
ニ若シレ然ル時ハ向後下田ノ地ニ於テ應接ス  
ル者ヲ止メ直チニ江戸ニ赴キテ其條約ノ者ニ  
背キテ究屈ノ待遇ヲル趣ヲ談合スヘシト此時  
日本官人答テ曰ク元来我方ニテ吏卒等ヲシ  
テ亞人ニ附添ハシムル者ハ亞人ヲ守衛スルカ  
為ニシテ實ニコレヲ尊ヘルナリ敢テ此吏卒等  
ヲ附ケテ以テ兩國人ノ交通ヲ防カシカ為ニ供  
セル者ニ非ス且我方國風ハ元来諸國ト異ナリ  
積習已変ヲ得ナクハ所ナキニモ非カルナリ提督

公ニモ亘レク右等ノ所ヲ察シ給ハルヘシ且又  
其方ニテ日本ノ物品ヲ買調ヘシ莫ハ宜シク兩  
國ノ交商相始マリタル処ニテコレヲ買調フハ  
キナリト此時亞人ノ曰ク然レトモ亞人日々必  
用ノ物品ハ買調フ事ヲ許サレスニハ有ヘカラ  
スト是ニ於テ日本官人モ此莫ハ遂ニ亞人ノ望  
ニ任カセタリ然レトモ此物品ヲ賣買スルニハ  
兩國人私ニ賣買スルヲ得ス通辨官コレニ立合  
ヒテ公ニ其莫ヲナスヘシト定メタリ此議論終  
リタル処ニテ日本官人先日私ニ亞船ニ來レル

兩生ノ莫ヲ云ヒ出シテ亞國ノ將官ニ其様子ヲ  
搜ラントセリ然レトモ我カ將官ハ兩生ノ莫ニ  
付キテ何ヲモ辨解ヤス右等ノ莫ハ我カ提督ト  
其方ノ高官人トノ會話ニアラスニハコレヲ談  
論スヘカラスト云フテコレヲ避ケタリ又此論  
終リタル処ニテ亞人日本ノ物品ヲ買ヲ莫ニ付  
キテ金錢ノ價ヲ定メシ莫ノ談合ニ及ヒケルニ  
元來日本ハ外國ト交通セザレハ外國ニ  
ハ日本ノ金錢アル莫ナシ故ニ外國人日本ノ物  
品ヲ買フニハ日本ノ金錢ヲ以テ其價ヲ收ムル

事能ハス故ニ下田ニ於テ物品ヲ買フ時ハ五金  
五錢ヲ以テ其價ヲ拂フヘキ定ニ定メ而シテ又  
我カ銀<sup>ドル</sup>ラルト支那ノ銅<sup>ケツ</sup>シ<sup>名</sup>貨ト比較シ  
テ其價ヲ量リ<sup>トル</sup>ラル一錢ト<sup>ケツ</sup>シ<sup>一</sup>千六百  
ト同價ニ通用スヘキ由ヲ建議シケレハ日本人  
皆右ノ次第ニ同意セリ○斯クテ五月二日ニ成  
リケレハ無人島ヨリマセドニ<sup>シ</sup>船帰り乘リ  
テ下田ニ到著シ無人島ヨリ毫ヲ多ク持テ来リ  
テコレヲ下田ニ滞泊セル諸船ニ分與シケレハ  
諸船中ノ人々皆大ニコレヲ喜ビタリ元来下田

ノ土地ニテハ佛道ヲ崇信シテ畜類魚類等ヲ多  
ク食セサル故ニ肉食物ハ誠ニ少ナク又下田ニ  
獸類アリト雖<sup>凡</sup>土人等コレヲ運轉ノ用ニ供シ  
テ食物ニハ用ヒサル故ニコレヲ買フテ以テ食  
物ニ供スル時ハ其價最高直ナリコレニ依テ我  
カ船中ニテ只今迄ハ肉食物誠ニ拵底ナリケル  
処ニマセドニ<sup>シ</sup>船此處ヲ持參セルヲ以テ諸  
人大ニ喜ビテコレヲ賞味セサル者ハ無カリ  
ケリ○マセドニ<sup>シ</sup>船下田港ニ到著シテヨリ  
二日ヲ経テ<sup>レ</sup>キニ<sup>ト</sup>ニ<sup>シ</sup>船ハ琉球ニ向ヒテ出

帆<sup>レ</sup>又<sup>レ</sup>統<sup>テ</sup>五月六日ニハ「マセド<sup>レ</sup>」<sup>レ</sup>ハンダ<sup>レ</sup>  
<sup>レ</sup>「<sup>レ</sup>リ<sup>レ</sup>」<sup>レ</sup>ハン<sup>レ</sup>ト<sup>レ</sup>ン<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>三<sup>レ</sup>艘<sup>レ</sup>他<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>蒸<sup>レ</sup>氣<sup>レ</sup>諸<sup>レ</sup>船<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>先<sup>レ</sup>立<sup>レ</sup>  
テ<sup>レ</sup>箱<sup>レ</sup>館<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>向<sup>レ</sup>ヒ<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>出<sup>レ</sup>帆<sup>レ</sup>セ<sup>レ</sup>リ<sup>レ</sup>又<sup>レ</sup>「<sup>レ</sup>ボ<sup>レ</sup>」<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>タ<sup>レ</sup>ン<sup>レ</sup>船<sup>レ</sup>中<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>  
於<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>人<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>夫<sup>レ</sup>アリ<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>幸<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>シ<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>高<sup>レ</sup>處<sup>レ</sup>ヨ<sup>レ</sup>リ<sup>レ</sup>其<sup>レ</sup>下<sup>レ</sup>  
畏<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>落<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>即<sup>レ</sup>時<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>斃<sup>レ</sup>死<sup>レ</sup>シ<sup>レ</sup>タ<sup>レ</sup>リ<sup>レ</sup>ケ<sup>レ</sup>レ<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>亞<sup>レ</sup>人<sup>レ</sup>ヨ<sup>レ</sup>リ<sup>レ</sup>此<sup>レ</sup>  
死<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>ヲ<sup>レ</sup>陸<sup>レ</sup>地<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>葬<sup>レ</sup>リ<sup>レ</sup>度<sup>レ</sup>キ<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>昔<sup>レ</sup>ヲ<sup>レ</sup>日<sup>レ</sup>本<sup>レ</sup>人<sup>レ</sup>エ<sup>レ</sup>申<sup>レ</sup>シ<sup>レ</sup>入<sup>レ</sup>  
レ<sup>レ</sup>ケ<sup>レ</sup>ル<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>日<sup>レ</sup>本<sup>レ</sup>人<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>方<sup>レ</sup>ヨ<sup>レ</sup>リ<sup>レ</sup>早<sup>レ</sup>達<sup>レ</sup>コ<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>昔<sup>レ</sup>ヲ<sup>レ</sup>承<sup>レ</sup>引<sup>レ</sup>シ<sup>レ</sup>  
テ<sup>レ</sup>其<sup>レ</sup>墓<sup>レ</sup>所<sup>レ</sup>ヲ<sup>レ</sup>桺<sup>レ</sup>崎<sup>レ</sup>村<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>近<sup>レ</sup>邊<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>撰<sup>レ</sup>ヒ<sup>レ</sup>向<sup>レ</sup>後<sup>レ</sup>若<sup>レ</sup>又<sup>レ</sup>船<sup>レ</sup>中<sup>レ</sup>  
ニ<sup>レ</sup>死<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>アル<sup>レ</sup>時<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>亦<sup>レ</sup>コ<sup>レ</sup>レ<sup>レ</sup>ヲ<sup>レ</sup>モ<sup>レ</sup>此<sup>レ</sup>地<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>葬<sup>レ</sup>ラ<sup>レ</sup>ント<sup>レ</sup>定<sup>レ</sup>  
メ<sup>レ</sup>タ<sup>レ</sup>リ<sup>レ</sup>斯<sup>レ</sup>ク<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>葬<sup>レ</sup>埋<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>日<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>至<sup>レ</sup>リ<sup>レ</sup>ケ<sup>レ</sup>レ<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>日<sup>レ</sup>本<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>官

吏<sup>レ</sup>兩<sup>レ</sup>三<sup>レ</sup>人<sup>レ</sup>我<sup>レ</sup>カ<sup>レ</sup>船<sup>レ</sup>中<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>来<sup>レ</sup>リ<sup>レ</sup>日<sup>レ</sup>本<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>風<sup>レ</sup>習<sup>レ</sup>ナ<sup>レ</sup>レ<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>ト<sup>レ</sup>  
テ<sup>レ</sup>其<sup>レ</sup>死<sup>レ</sup>骸<sup>レ</sup>ヲ<sup>レ</sup>驗<sup>レ</sup>セ<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>夏<sup>レ</sup>ヲ<sup>レ</sup>願<sup>レ</sup>ヘ<sup>レ</sup>リ<sup>レ</sup>時<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>其<sup>レ</sup>尸<sup>レ</sup>ヲ<sup>レ</sup>櫃<sup>レ</sup>内<sup>レ</sup>  
ニ<sup>レ</sup>入<sup>レ</sup>レ<sup>レ</sup>タ<sup>レ</sup>レ<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>未<sup>レ</sup>釘<sup>レ</sup>ヲ<sup>レ</sup>以<sup>テ</sup>テ<sup>レ</sup>固<sup>ク</sup>コ<sup>レ</sup>レ<sup>レ</sup>ヲ<sup>レ</sup>封<sup>レ</sup>印<sup>レ</sup>セ<sup>レ</sup>サ<sup>レ</sup>  
リ<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>故<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>日<sup>レ</sup>本<sup>レ</sup>人<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>願<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>從<sup>レ</sup>ヒ<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>其<sup>レ</sup>尸<sup>レ</sup>ヲ<sup>レ</sup>驗<sup>レ</sup>セ<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>  
其<sup>レ</sup>ヨ<sup>レ</sup>リ<sup>レ</sup>コ<sup>レ</sup>レ<sup>レ</sup>ヲ<sup>レ</sup>陸<sup>レ</sup>上<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>墓<sup>レ</sup>所<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>送<sup>レ</sup>リ<sup>レ</sup>即<sup>レ</sup>極<sup>レ</sup>教<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>法<sup>レ</sup>ヲ<sup>レ</sup>  
以<sup>テ</sup>テ<sup>レ</sup>コ<sup>レ</sup>レ<sup>レ</sup>ヲ<sup>レ</sup>葬<sup>レ</sup>リ<sup>レ</sup>タ<sup>レ</sup>リ<sup>レ</sup>○<sup>レ</sup>其<sup>レ</sup>後<sup>レ</sup>亞<sup>レ</sup>人<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>輩<sup>レ</sup>アリ<sup>レ</sup>上<sup>レ</sup>陸<sup>レ</sup>  
ニ<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>下<sup>レ</sup>田<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>近<sup>レ</sup>邊<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>游<sup>レ</sup>獵<sup>レ</sup>シ<sup>レ</sup>ケ<sup>レ</sup>ル<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>遂<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>興<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>棄<sup>レ</sup>シ<sup>レ</sup>  
テ<sup>レ</sup>夜<sup>レ</sup>分<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>及<sup>レ</sup>ヒ<sup>レ</sup>船<sup>レ</sup>中<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>歸<sup>レ</sup>シ<sup>レ</sup>夏<sup>レ</sup>能<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>ス<sup>レ</sup>是<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>於<sup>テ</sup>テ<sup>レ</sup>此<sup>レ</sup>  
亞<sup>レ</sup>人<sup>レ</sup>等<sup>レ</sup>下<sup>レ</sup>田<sup>レ</sup>邑<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>亞<sup>レ</sup>人<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>宿<sup>レ</sup>寺<sup>レ</sup>アル<sup>レ</sup>ヲ<sup>レ</sup>以<sup>テ</sup>テ<sup>レ</sup>三<sup>レ</sup>人<sup>レ</sup>  
相<sup>レ</sup>共<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>下<sup>レ</sup>田<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>寺<sup>レ</sup>院<sup>レ</sup>ヲ<sup>レ</sup>尋<sup>レ</sup>子<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>其<sup>レ</sup>寺<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>投<sup>レ</sup>宿<sup>レ</sup>セ<sup>レ</sup>ント

シケルニ寺中ノ人々亞人ノ投宿スルヲ欲セサ  
ル体ニ見ヘタレトモ亞人等少シモコレニ管セ  
ス直チニ其室内ニ突入シテ各自其卧床ヲ構ヘ  
三人將ニ眠ニ就カントセシ処ニ忽テ戸口ヨリ  
荒々シキ物音ニテ堀達之助等數輩相率ヒ來リ  
テ亞人ノ卧室ニ入り亞人ニ語りテ是ヨリ速ク  
ニ船中ニ歸ルヘシトノ由ヲ告ケタレトモ亞人  
等此旨ヲ聞キ入レサリシ故ニ達之助其跡ヲ見  
テ此趣ヲ提督ニ告ケテ爰ヲ設セシト思ヒ數人  
ノ官吏ヲ止メテ此亞人等ヲ守ラシメ其身ハ此

席ヲ出テ去リケレハ此室内ニ残り居タル官吏  
等嚴シク亞人等ヲ促カシテ船中ニ歸ラシメシ  
トシタリケレハ亞人等モ窮迫シテスヘキ様ナ  
ク遂ニ各其所持セル大竅ノ小銃ヲ以テ其官吏  
等ヲ打タシトスルノ体ヲ示セリ是ニ於テ官吏  
等大ニ驚キテ急ニ其坐ヲ逃ケ去リケレハ亞人  
等是ヨリ初メテ安穩ニ卧眠スル爰ヲ得タリ斯  
クテ日本ノ官吏等再ヒ此室内ニハ來ラサレ共  
此室ノ次第ニテ終夜亞人等ヲ守リ居タル様子  
ニ見ヘタリ是ヨリ此爰ニ付キテ日本官人亞國

、官吏ト議論ニ及ヒケレハ日本官人亞人ニ向  
ヒテ此度亞人具宿寺ニモアラサル寺院ニ入込  
ミ我カ官吏等ノ禁制ニモ從ハス日本ニテ此ノ  
如キ者ヲ取扱フニハ誠ニ當惑ナルノ間尙後ハ  
亞人上陸ノ節ハ必常ニ守兵ヲ附添ヘテ右様ノ  
振舞ヲ防カレシメ箇様ノ振舞ニテハ實ニ兩國  
ノ和親條約ノ本意ニ背ケリトノ言ヒケレシ  
ハ亞人コレヲ聞キテ我カ方ニテハ少シモ條約  
ノ旨ニ背ケル事ナシ元來條約ニモ其方ニテ亞  
人ヲ取扱フニハ支那和蘭ノ諸人ヲ取扱フト遠

ヒテ決シテ窮屈ノ取扱ハ致サ、ルノ積ナリ亞  
人ニモ亦各具守衛アリ何リ其方ノ夫カヲ借ル  
ヘキヤト種々ノ條理ヲ説キテ日本官人ノ辭ヲ  
折キタレハ日本官人モコレニ屈シテ遂ニ抗對  
スル莫能ハサリケリ既ニコレ日本官人又尙後  
夜分ニハ亞人ヲ陸上テ留メ置ク莫ク止メント  
ノ旨ヲ云ヒ出シタレトモ忽チ亞人ノ為ニ其說  
ヲ折カシタリ斯クテ是ヨリ日本官吏等亞人ノ  
下田ノ土人等ト交ハルヲ防ク事ナク兩國人漸  
クニ懇切ノ交情ヲ通スルヲ得ルニ至レリ又日



本ニテ提督ノ心ヲ安ニセシカ為ニ日々食料等  
ヲ送り来リテ其懇切ノ情ヲ表セリ○去ル程ニ  
提督兼テ箱館へ出帆セント定メ置キタル五  
月九日モ迄付キケレハ命ヲ船中ニ下シテ其用  
意ヲナシ遂ニポーハタン<sup>1</sup>ミス<sup>1</sup>ツ<sup>1</sup>ピー<sup>1</sup>ノ兩船  
ヲ引テ下田港ヲ出帆シ<sup>1</sup>シヤ<sup>1</sup>プル<sup>1</sup>船ヲハ猶未此  
港内ニ残シ垂ケリ扱提督下田港出帆ノ前ニ日  
本人ニ應接シテ堀達之助欵或ハ他ノ吏人ヲシ  
テ箱館へノ先導者トナサシメシ吏ヲ願ヒタリ  
然レモ日本官人遂ニ此事ヲ兼引セサリケリ抑

提督下田港ニ滞留セル吏ハ廿五日ノ間ナリ此  
間五人下田ノ官人ト數度ノ應接ヲナシタルニ  
此官人江戸府ヨリ如何ナル命令ヲカ受ケ居タ  
リケン其應接ノ度コトニ返答唯諾甚遅滞セリ  
然レトモ遂ニハ應接ノ諸吏モ夫々ニ相濟ミ兩  
國人互ニニ交情ヲ通スル吏ヲ得又下田ノ港内  
及ヒ其近傍ヲ委細ニ測量檢索スル吏ヲ得テ兩  
國ノ和親ヲ破却スヘキ議論等ハ無カリケリ○  
斯クテ提督ハ下田ヲ出帆セシニ江戸湾口ナル  
大島等ノ諸島船中ヨリ其形勢遠カニ見ヘ渡リ

ケレハ提督是ヨリ大島へ赴キテ其嶺火山杯ヲ  
檢索セント思ヒ船ヲ此島ノ南隅ニ潜キ寄セ此  
島ヲ離ル、隻僅カ四五里ニシテ其形勢ヲ眺望  
セシニ此島ニハ火山多ク火煙処々ヨリ立登リ  
テ恰モ雲霞ノ如シ又此大島ヲ傍ニシ其船ヲ「キ  
ング岬」ニ追ノテ此岬ノ経緯度ニアルカラ吟  
味セリ又大島ト「キング」岬トノ間ナル海峡ニハ  
東方ニ流ル、一條ノ迅速ナル潮流アリ又亞船  
洲崎岬白濱岬及ヒ白館岬ニ沿フテ潜キ行キナ  
カラ此三岬ヲ眺望セリ此三岬ハ安房ノ南隅ニ

在リテ皆海岸ヨリ海中ニ突出セル高陵ナリ又  
其岬崎ノ近邊ニハ村落等処々ニ簇カリテ見ヘ  
渡リ誠ニ好風景ノ一望ナリケリ「キング」岬トハ  
即チ白館岬ノ  
事ニシテ亞人ノ名叔此「キング」岬ノ位地ヲ度リ見ル  
ワケタル名号ナリ  
ニ此岬ハ日本安房ノ部内ニシテ其南隅ニ居リ  
北緯三十四度五十三分十五秒東經百十度十八  
分五十秒ニ在リ又此岬ハ東方ニ連ナリテ漸ク  
ニ高ク海岸ヨリ陸上ニ入ル事ニ里許ナル圓錐  
状ノ高山ニ接セリ此高山ニハ樹木青々ト生  
茂リ又此辺ニハ小山連綿トシテ丘陵群ヲナシ

亦一境ノ好風景ナリ扱亜船初ノテ此辺ヲ通行  
セシ時ニハ此「キング」岬ヲ眺望シテ海中ノ一島  
ナリト思ヒシニ能々コレヲ望見タレハ全ク以  
テ左ニハ非サリケリ又東方ヨリ下田へ赴カン  
トスルノ船舶ハ先此「キング」岬ニ向ヒテ其航路  
ヲ取り北方ニ行ク事六里斗ニシテ其ヨリ大島  
ノ南隅ニ向ヒテ行クヘシ此大島天氣静晴ノ時  
ニハ「キング」岬ヨリコレヲ眺望スル莫ク得ヘ  
シ其ヨリ此大島ノ南隅ヲ過キラ下田港ノ西方  
ニ向ヒ行クヲ善シトス○又是ヨリ地圖ヲ以テ

日本海潮流ノ変ヲ詳カニ論ニ示スヘシ此地圖  
中ニハ日本人ノ「クロシホ」ト名クル潮流ノ変ヲ  
最モ詳カニ載セタリ亞船ノ日本海ニ航遊スル  
ニハ此潮流ノ変ヲ最能ク知ラスニハアルヘカ  
ラス此変ニ自キテハ我方ノ船将官「ベント」氏  
ノ精ニキ論說アレトモ今爰ニ其論說ヲハ載セ  
スニテ唯今般日本へ渡来セル将官等ノ説ヲ記  
カン扱此度日本ニ渡来セル将官等日本海ニ於  
テ一條ノ潮流ヲ見出セリ此潮流ハ大畧大西洋  
ニアル所ノ潮流ニ同シ又此潮流ハ「ホルモ」島

ノ南隅ヨリ起リテ大平洋赤道潮流ノ一部ナリ  
此潮流廻流シテ歸ル時ニハ復ルモルモサ島海ニ  
入りテ亦支那海ニ入ルナリ又其一派ハ「ホルモ  
」ノ東海岸ヲ行キテ北方ニ曲流シ又此線此ニ  
於テ數條ニ分裂シ其方向一ナラス或ハ琉球島  
ニ及フ者アリ此ノ如キ時ハ琉球海ノ水氣較暖  
意ヲ帶フルナリ又此潮流北方ニ流ルノ時ハ北  
緯二十六度ノ線ニ至リ又東北ニ流ルノ時ハ日  
本南海岸ニ沿フテ「サシガハ」海峡ニ達シ其潮流  
進ニ行クニ從テ其勢力益々強トス而シテ又

江戸湾ノ南方ナル群島ノ近辺赤道ノ東百四十  
度ノ処ニ於テ其潮流海面ニ横タハル支長サ七  
十二里或ハ七十四里或ハ八十里ナリトス「ホ  
ルモ」島ノ南隅ヨリ「サシガハ」海峡ニ達スルノ潮  
流ハ其長サ三十五里或ハ四十里ナリ此潮流  
長ケレハ其水勢益々弱ク短ケレハ其水勢益々  
強ニ故ニ其長サ三四十里ナル者ハ實ニ航路ノ  
害ヲナス多シ又江戸湾ノ南方ナル潮流ハ詳  
カニ其廣幅ノ際限ヲ知ラスト雖トモ大方此廣  
サハ無人島ノ邊ニ達スルカ又ハ八丈島ノ辺ニ

至ルナルヘシ又此潮流ハ江戸ノ南海ヨリ海岸  
ニ沿フテ北方ニ向ヒ蝦夷島ノ南海岸ニ觸レテ  
其ヨリ東方ニ向ヒ北緯四十度東經百四十三度  
ノ処ニ至リテ西南ノ間ニ流レ行キ既ニシテ正  
西ノ方ニ流ル扱此江戸海ヨリ北方ニ流ル、潮  
流ノ変ニ付キテ我カ水學者未詳カニコレヲ論  
スル変能ハス然レトモ其一派ノ分流「サニガル」  
海峡ニ入りテ日本ノ西海ニ流ル者アリ是ハ  
此分流高麗ト日本トノ海峡ヲ通行シテ又支那  
ト「ホルモサ」島トノ間ヲ通行スルノ潮路アルヲ

以テ「サニガル」ノ海峡ニ入ルナラント云ヘリ又  
水學者推量ノ説ニ支那ト「ホルモサ」トノ海峡ヲ  
行ク潮流北風烈ニキ時ニハ南方ニ傾キテ流ル  
ヘシト是ハ此北風ノ力ニ因リテ此潮流「ホルモ  
サ」ノ南隅ヨリ起ルノ潮流ニ近寄ル事ヲ得ル故  
ヲ以テナリ又西南ノ風烈ニキ時ニハ支那ト「ホ  
ルモサ」トノ間ナル潮流風力ノ為ニ翻カヘサレ  
テ逆流トナリ「ホルモサ」ノ北角ト日本ノ南隅ト  
ノ間ニテ「クロ」ニホノ流ニ混入スルナリ○扱支  
那ト「ホルモサ」トノ海峡ニ西南ノ風ニ依テ此潮

水逆流ヲ生スル時ハ此海峡ヲ航行スル船舶コ  
レカ為ニ抵抗セラレテ北方へ流カル、ナリ故  
ニ斯カル時ニハ船舶此海峡ヲ通航セスレテホ  
ルニサ島ノ東海岸ヲ行クナリ又假令此時東海  
岸ノ方モ西南ノ風烈シクトモ猶此島ト支那ト  
ノ海峡ヲ通航セスレテ此東海岸ニ沿ヒ行クヲ  
善トス又大西洋ノ潮流ト日本海ノ「ク」口ニホノ  
種類トノ間ニ於テ我カ將官「ベ」ント「一」種ノ潮流  
ヲ發見セリ元來此潮流ヲ發見セシ度ハ初メ「レ」  
ト「ヒ」ル君及ヒ船將官「マ」ウ「レ」ノ言ニ大西洋ヲ

航行スル者ハ大西洋中ノ東流スル潮水ヲ避ス  
ンハ有ヘカラスト云ヒ又大西洋ノ方ニ向ヒタ  
ル亞國ノ海岸ニ於テ此潮水ノ東流ニ逆ラヒク  
ル潮流アリ航海ノ者宜ヒク此逆潮ヲ避クヘシ  
ト云ヘルヲ以テ「ベ」ント「コ」レヲ穿鑿シテ遂ニコ  
ノ潮流ヲ見出セリ扱此大西洋ノ潮水ノ東流ス  
ル者ハ全ク以テ其潮水海岸ニ觸ル、ヲ以テノ  
故ニ東流ノ勢ヲ生スルニ非ス然レトモ赤道直  
下近辺ニ於テ疾速ニ回流スルヲ以テ其勢遂ニ  
東流スルナリ又此ニ拳ケタル逆潮ナル者ハ緩

流ニテ北極ノ方ニ向ヒ北風ニ依リテ遂ニ其邊  
流ヲ生スル者ナリ且此潮流ハ北風ヲ帶ル故  
ニ其潮水他ニ比スレハ較冷カナリトス又  
トノ發見セル一種ノ潮流アリ其潮流ハ此度亞  
人日本行ニテ發見セル潮流ノ一派ニシテ其潮  
水冷ナリ又大平洋ノ潮流ト大西洋ノ潮流ハ其  
水氣ノ寒暖畧同シ亦其潮流ノ大小モ異ナル  
ナシトス然レトモ「クロシホ」ノ温度ハ其他ノ海  
水ノ温度ト少シク差異アリト雖トモ大異アル  
夏ナシ又亞國ノ潮流ノ中ニ生スル所ノ海草ノ

如キ者ハ亦「クロシホ」ノ間ニモ生シ居レリ此度  
亞人「クロシホ」ノ間ヨリ此海草ヲ採リテ其品種  
ヲ分タントセシカトモ其人未コレヲ本草家ニ  
示サ、ルニ其草ヲ失ヒタリ是ヲ以テ明カニ其  
海草ノ品種ヲ分ツ事ハ能ハサリシカトモ我カ  
方ノ舟人等ハ皆コレヲ我カ國ノ「アグスタン  
」草ニ異ナル事ナシト云ヘリ又將官「マウレ」ノ  
説ニ此「クロシホ」ノ本源ハ印度海ニ在リ而シテ  
印度海潮水ノ温度ハ「カリッヘー」ン海ノ潮水ヨリ  
モ高シト云ヘリ○叔蒸氣船下田港ヲ發シテ箱

館ニ赴キ海岸ヲ距ル事六里斗ニシテ舟路ヲ取  
リ磯村ノ邊ヲ通航セシ時ニ此邊ニ日本ノ漁船  
釣舟等多ク集リ居タリケリ又此邊ノ浅深ヲ測  
量シケルニ七十四尋ノ処モ又八十尋ノ処モ有  
リタリ又是ヨリ並船進ミテ大坊崎ノ方ニ向ヒ  
海岸ヲ距ル事僅カニ一里許ノ処ニ至リ蒸氣機  
使用ヲ止メテ船ヲ停メ海水ヲ測量シテ三十尋  
許ノ処ニ至レリ其ヨリ並船東南ニ向ヒテ舟路  
ヲ取り緩々ト此処ヲ通り過キケルニ海面ニ於  
テ海水ノ常ニ破碎シテ恰モ瀑布ノ下流ノ如キ

処ヲ見タリ是必此下底ニ岩石暗礁等ノ有ルヲ  
以テ海水コレニ觸レテ斯ノ如ク破碎動揺スル  
ナルヘシ此時提督船ヲ寄セテコレニ近付キ此  
ニ停リテ此処ヲ委細ニ検査セントセシカトモ  
日暮ニ及ヒタル故ニ遂ニ其吟味ヲ遂ケサリケ  
リ時ニ又提督此処ニ逗留シテ此事ヲ遂ケニト  
モ思ヒタルトモ並船箱館ノ前路ヲ急ク故ニ遂  
ニ其終ニテ此処ヲ過キ去レリ又此度箱館行ノ  
道中ハ天氣快晴ニシテ航海稍進ミシ故ニ到着  
ノ日限十九日ヨリハ早ク箱館ニ到ル事ヲ得ン



ト思ヒシニ既ニシテ天氣漸クニ變シテ煙霧四  
塞シ眺望咫尺ヲ分タスニテ速カニ其船ヲ進ム  
ルコト能ハサリケリ既ニシテ其船漸クニ進ン  
テ五月十五日黒崎ノ邊ニ至リケレハ此岬崎ノ  
奥ニ群山相連リテ其高頂未白雪ヲ殘セル者見  
ヘタリ又此邊ニ至リケレハ天氣較涼フシテハ  
一レンヘ一ト氏ノ寒暑鍼ハ五十九度ニナレリ  
又海水ノ溫度ハ五十五度ニテ有リケリ又此邊  
ハ海水甚平カニシテ此水面ニ魚油ノ如キモノ  
浮ヒ来レリ是ハ必鯨魚ノ口中ヨリ吐キ出セル

涎水ナルヘシ且又鯨魚ノ吐ケル者ト見ヘテ小  
魚類ノ死体等モ流レ来レリ其ヨリ十九日ノ朝  
ニ海岸ニ沿フテ船ヲ進メシリヤ崎ノ邊ニ至レ  
リ此シリヤ崎ハ日本國東北ノ隅角ナリ又日本  
ノ地形ハ房州白濱岬ヨリ東南ノ海岸ハ江戸湾  
ノ西岸ニ比スレハ較下キニトス又其海岸下低  
ナリト雖トモ海上ヨリ四十里斗ノ距離ノ所ニ  
テ其海岸ヲ眺望スルトキハ猶能之ヲ見ル事ヲ  
得ルナリ又シリヤ崎ニ近寄ル時ハ日本ト蝦夷  
島ヲ分チタル「サンガル」海峡ヲ分明ニ見ル事ヲ

得タリ其ヨリ亞船此海峡ニ入リテ箱館ニ向  
ケルニ一條ノ潮流ニ遇ヒタリ是ニ依リテ亞船  
直チニ箱館港ニ行ク事能ハスレテ其日ハ空  
ク船ヲ回シ其明朝ヲ待テ亞船此潮流ノ側ヲ廻  
航シテ箱館ニ向ヒタリ其ヨリ進ンテ箱館ノ港  
口ニ入ラントセシニ朝霧掩塞シテ港内ノ物色  
ヲ辨スル事能ハサリシ故ニ復其船ヲ引回サン  
トセシ処ニ忽チ太陽ノ昇ルニ隨ヒ烟霧モ漸ク  
ニ消除シテ港内礁印標目等モ分明ニナリケレ  
ハ是ニ於テ亞船復進シテスロクボ岬ニ近寄り

ケルニ忽チ三艘ノ亞船ノ其港内ニ碇泊セル者  
ヲ見タリ是ハ則先日提督ニ先達テ下田港ヨリ  
箱館港ニ来泊セル者ナリ此亞船モ提督カ本船  
ノ来レルヲ見テ提督ト約シ居タルカ如  
ク即時ニ小船ヲ本船ニ遣ハシテ事ヲ提督ニ白  
フサシメタリ是ニ於テ提督其三船ノ異事ナキ  
ヲ悦ビ其ヨリ「ボート」ハタシ「ミス」ニ「ピ」ノ二船ヲ  
シテ此港内ニ碇泊セルメタリ時ニ五月十七日  
朝九時ナリ箱館港ハ「カンガル」海峡ノ北ニ當リ  
テ松前ノ首邑ト「シリヤ」岬ノ間ニ在リ其港内船

船ヲ置クニハ甚安全ナル港ニシテ實ニ世界中  
ノ一好港ナリ又此港ハ<sup>リ</sup>ヤ崎ノ西北ニ當リ  
テ其距離四十五里許ナリ又其港口ノ濶キ事ハ  
四里許ニシテ其港ノ長キコトハ五里許ナリ又  
<sup>リ</sup>サンガル海峡ヲ通航スル事ハ即チ我等此度コ  
レヲ試ミタル通り何モ困難ナル事ナレ此箱館  
ノ港口モ舟船ノ往來ニ其都合甚宜シキナリ箱  
館港モ亦下田港ノ如ク内港外港ノ形状ヲナセ  
リ而シテ其外港ノ状ハ恰モ馬沓ノ如ク外港ノ  
内ニハ一点ノ淺処アリテ舟船ノ往來ニ害ヲナ

ス者アリ故ニ此淺処ノ上ニハ常ニ錨浮ヲ浮ヘ  
置テ其險難ヲ表セリ又内港トハ即チ外港ノ東  
南ニ當リタル一湾ニシテ深ク外港ニ隱レ居リ  
大風巨濤ノ難ナクシテ碇泊ノ安全ナル事ハ實  
ニ諸洲ニ希ナル好港ナリ又内港ノ深サハ五尋  
或ハ七尋ニ至ル而シテ此港内ニ碇泊ノ舟船ヲ  
布列セシニハ大約百艘ヲ置ク事ヲ得ヘシ又箱  
館邑ハ一ノ岬崎ニ居ル而シテ箱館ノ内港ハ即  
チ此岬崎ノ港中ニ横出セルヲ以テ一内港ノ形  
状ヲ得タルナリ此岬崎ハ一條ノ地峽ヲ以テ陸

土ニ連接セル者ニシテ卒然トシテコレヲ望メ  
ハ恰モ島嶼ノ如シ又此内港ニ碇泊セル船舶ノ  
帆樯ハ内港ノ後面ナル地峽ノ邊ヲ航行スル船  
中ヨリ遙カニコレヲ望見ル事ヲ得ルナリ航行  
ノ船舶東方ヨリ箱館ニ入港スルニハ先箱館ノ  
岬崎ニ沿ヒ行キ北方ナル駒ヶ嶽ヲ標目トシテ  
其船ヲ進メ其ヨリ又東南ノ方ヘ舟路ヲ轉シテ  
箱館ノ内港ヘ向フヘシ又箱館邑ノ西北ナル隅  
角ノ処ヨリ海底ニ横出セル一條ノ浅処アリ船  
舶ノ内港ニ入ルニハ此浅処アリテ少シク其通

行ニ不便ナレトモ此船舶既ニ其港内ニ入ル時  
ハ此浅処ノ其側ニ横タハルヲ以テ港外ノ風波  
コレニ及ハサルノ利アリトス又船舶深ク此港  
内ニ入ラントスル時ハ大船ニ非サル者ハツキ  
岬ヨリ四半里ノ距離ノ処マテ至ル事ヲ得ルナ  
リ又此ツキ岬ニハ船舶ノ營造所アリ此岬邊ニ  
ハ日本ノ船舶常ニ多ク集リ居レリ若此岬邊ノ  
海水深フシテ大船ヲ入ルニ堪ユヘキ時ハ船  
舶ノ碇泊処孰レカ是ヨリ善キ者アラシ

彼理日本紀行卷之二十二終

其安内 八十九



